

縄梯子で海難事故防止 ～簡単・安全・縄梯子～

海洋学科 3年航海コース

題名設定の経緯

私たち海洋高校では、1年次からロープワークを実習で行う。航海コースでは、2年次に2か月間の国際航海実習に行く。船の中でも色々な場面でロープを使いロープワークの重要性を感じた。私たちの航海のハワイ入港前で、同じ水産系高校の実習船から生徒が転落と報告があり、捜索活動をするようになった。4日間捜索活動をしたが、結局見つからず、捜索は打ち切りになり、命の重さを改めて感じた。3年次には小型船舶の実習が始まり自分で操縦しないと行かない。去年、全国の釣り中の事故者292人のうち、海中転落者が最も多く207人(70%)を占めているそうだ。プレジャーボートで魚釣りや小型漁船での漁作業など作業に集中していると、周囲の状況が見えなくなる場合があり、バランスを崩して海中転落してしまうおそれがある。過去には地元宇佐でも1人で小型船乗船中に海中転落して、船に上がろうとしてもうまく上がれずに力尽き、亡くなってしまったという悲しい事故が発生している。そこで、今まで習ったロープワークの知識・技術を活用し、ロープを使って簡単にできる縄梯子を作り、みんなに作り方を広めようと考えた。



○実践活動の内容

- (1) 縄梯子の試作および高知海上保安部警備救難課の講習を受け縄梯子の作り方を学ぶ。
- (2) 落水実験(縄梯子の有用性を確立)
- (3) 地域連携(宇佐小学校へ教えに行く。体験入学にて中学生に教える)
- (4) 地域連携(漁港の調査・縄梯子の設置)

○結果

(1) 慣れれば10分ほどで縄梯子を完成させることができた。練習するうちに、人に教えるにはどうしたらよいか考えるようになった。

(2) 服が濡れて重くなり、登るのがしんどい。梯子があると、梯子に足をかけることができ、楽に登れた。コツや力も必要なく登りきることができるということが分かった。

	縄梯子なし	縄梯子あり
A君	22秒	15秒
B君	44秒	6秒
C君	31秒	5秒

(3) 海や川で遊ぶ機会が多い夏休み中に、小学生に縄梯子の作り方を教え水難事故を防止しようと計画し募集のチラシを作成し宇佐小学校で配布してもらったが、応募者ゼロだった。体験入学では、1班3人の中学生を対象に実施。20分くらいで完成。失敗なくロープが初めての中学生でも縄梯子を作ることができた。

(4) 星海丸に協力をお願いしたところ、私たちの作った縄梯子を取り付けさせてくれた。

(4) 星海丸に協力をお願いしたところ、私たちの作った縄梯子を取り付けさせてくれた。

○まとめ

縄梯子の有無で転落した時に、船に上がってくる疲労感がまったく違うことが分かったので、今後もこの有効性を地域の方に伝えていきたい。